

作成日：2006年11月01日

改訂日：2025年03月01日

安全データシート（SDS）

1. 化学品及び会社情報

製 品 名：プロパンジープラス
供給者の会社名：シーバイエス株式会社
住 所：神奈川県横浜市中区山下町22番地 山下町SSKビル／〒231-0023
担 当 部 門：カスタマーテクニカルセンター
電 話 番 号：045-640-2280
F A X 番 号：045-640-2216
推 奨 用 途：業務用食器洗浄機用洗浄剤
使用上の制限：推奨用途以外には使用しない
整 理 番 号：T26041

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

物理化学的危険性	鈍性化爆発物	： 区分1
健康有害性	急性毒性（経口）	： 区分4
	皮膚腐食性／刺激性	： 区分1
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	： 区分1
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	： 区分2 呼吸器系
環境有害性	該当情報なし	

※上記で記載がない危険有害性は、分類できないか区分に該当しない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険有害性情報

危険
金属腐食のおそれ
飲み込むと有害
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
呼吸器系の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】
他の容器に移し替えないこと。
ミストを吸入しないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】
飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
直ちに医師に連絡すること。
口をすすぐこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

【保管】

耐腐食性／耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

人の健康に対する有害な影響

- ・ 吸入した場合、鼻・喉・気管支・肺を刺激し、処置が遅れるとしわがれ声、咽喉部の灼熱感、激しい咳、肺浮腫を生ずる。
- ・ 皮膚に付着した場合、強い刺激作用があり、処置が遅れると皮膚が侵され熱傷にいたる。低濃度溶液でも水分の蒸発により同様な症状を起こす。
- ・ 眼に入った場合、激しい痛みを感じ、処置が遅れるとその程度によって結膜や角膜が侵され視力低下あるいは失明にいたる。
- ・ 飲み込んだ場合、口腔・食道・胃部の灼熱感がある。濃い液を多量に飲み込んだ場合、処置が遅れると生命にかかわる。

環境への影響

- ・ 大量に流出した場合は、水生生物に対して影響を及ぼす。

物理的及び化学的危険性

- ・ 酸性物質と反応し中和熱を発生する。
- ・ アルミニウム（標準使用濃度以外にて）、すず、亜鉛などの金属と反応し、爆発性のある水素ガスを発生する。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

成分	CAS RN®	官報公示整理番号 化審法・安衛法	濃度又は濃度範囲 (%)
けい酸塩	非公開	非公開	非公開
メタけい酸ナトリウム並びにその五水和物及び九水和物	非公開	非公開	1～10
カルボン酸塩	非公開	非公開	非公開
水酸化カリウム	1310-58-3	1-369	1～5
水	7732-18-5	—	非公開

- ・ 内分泌かく乱作用を有すると疑われる化学物質：環境省「環境ホルモン戦略計画SPEED'98」（2000年11月版）で示された物質（65種類）を使用しない。

4. 応急措置

吸入した場合

： ミストを吸い込んだときは、直ちに新鮮な空気の風通しのよい場所へ移動し、鼻をかんだり、よくうがいをする。何らかの異状を感じたときは、直ちに医師の処置を受ける。

皮膚に付着した場合

： 直ちに多量の水でぬめり感がなくなるまで十分に洗い流す。衣服や靴などに付いたときは、直ちに脱ぎ皮膚を多量の水でぬめり感がなくなるまで十分に洗い流す。何らかの異状を感じたときは、直ちに医師の診断を受ける。

眼に入った場合

： 直ちに流水で15分以上洗い流す。コンタクトレンズは外す。その後、直ちに医師の処置を受ける。

飲み込んだ場合

： 直ちに水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせようとしない。意識のないときは口から何も与えない。ただし、牛乳アレルギーの人には牛乳を与えない。

その他

： 使用中、眼に異状を感じたり、せき込んだり、気分が悪くなったときは、直ちに使用を止めてその場から離れ、洗眼、うがいをする。その後、直ちに医師の処置を受ける。

いずれの場合も、医師への受診時には製品または安全データシートを持参する。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水、泡、粉末、二酸化炭素などの一般消火剤が使用できる。
 使ってはならない消火剤 : 情報なし
 火災時の特有の危険有害性 : 情報なし
 特有の消火方法 : 周辺火災の場合はすみやかに安全な場所に移す。
 移動ができない場合は、風上より容器周辺に散水して冷却する。
 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防装置 : 消火作業では適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 適切な保護具（保護眼鏡、保護手袋、保護靴、保護衣、保護マスク等）を着用する。
 漏出場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
 環境に対する注意事項 : 雨水溝、河川、海上などに多量に排出されないように注意する。
 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : スクイジーなどを用いてできる限り空容器などに回収する。
 回収した跡、または回収できないものは、多量の水で十分に洗い流す。
 洗浄水は、酸（希硫酸など）で中和してから排出する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い（技術的対策／安全取扱い注意事項／接触回避／衛生対策）

- 作業や製品容器の取扱い時は必ず適切な保護具（保護眼鏡、保護手袋、保護靴、保護衣、保護マスク等）を着用する。
- 洗浄剤や洗浄機の付近では必ずゴム長靴を着用する。
- 使用時は換気を良くする。
- キャップを開けるときの液が飛び出すことがある。また、容器を移動するときはキャップをしっかり閉める。緩んでいると液が跳ねて眼や皮膚に付くことがある。
- 飛散した液やミストを吸い込んだり、眼に入らないようにする。
- 業務用食器洗浄機以外には使用しない。
- 他の薬剤、洗浄剤などとは絶対に混ぜない。
- 誤飲等事故のおそれがあるので、飲料用の容器を含む他の容器に移し替えたり小分けしない。
- 銅・銅合金、すず、亜鉛製の物品や漆器の洗浄、接液を避ける。
- 倒したり、こぼしたりしないように注意する。
- 使い終わった容器は、十分に洗ってから処理する。

保管（安全な保管条件／安全な容器包装材料）

- 直射日光、40℃以上、多湿及び凍結のおそれのある場所を避けて密閉して保管する。
- 子供の手の届かないところに保管する。
- 酸性物質と同じ場所に保管しない。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 : 設定されていない。

濃度基準値

: 設定されていない。

許容濃度 : 水酸化カリウムとして

日本産衛学会（2014年版）：最大許容濃度 2mg/m³

メタけい酸ナトリウムとして

日本産衛学会（2007年版）：未設定

ACGIH（2007年版）：未設定

設備対策 : ミスト、蒸気などが滞留しないように局所換気装置または全体換気装置を設置する。

取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸器用保護具 : 保護マスク

手の保護具 : 保護手袋（ゴム手袋など）

眼、顔面の保護具 : 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具 : 保護靴（ゴム長靴など）、保護衣

（注）使用方法や使用環境などに応じた適切な保護具を選択してください。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体	
色	: 無色～淡黄色透明	
臭い	: データなし	
pH	: 10.8 (0.25%、25℃)	
密度及び ／又は相対密度	: 1.28 (20℃)	
動粘性率	: データなし	
溶解度	: 水溶性	
融点／凝固点	: 0℃以下	
沸点又は初留点及び 沸騰範囲	: データなし	
引火点	: なし（不燃性）	
可燃性	: データなし	
爆発下限界及び爆発 上限界／可燃限界	: データなし	
蒸気圧	: データなし	
相対ガス密度	: データなし	
n-オクタノール	: データなし	
／水分配係数		
分解温度	: データなし	
自然発火点	: データなし	
粒子特性	: データなし	
ヒ素[As ₂ O ₃ として]	: 0.05 ppm 以下	（食品、添加物等の規格基準 第5 洗浄剤）
重金属[Pbとして]	: 1 ppm 以下	（食品、添加物等の規格基準 第5 洗浄剤）
全りん酸塩	: 検出せず	（JIS K 3362）

（注）数値はいずれも代表値で表示

10. 安定性及び反応性

反応性	: 酸性物質と反応し中和熱を発生する。 アルミニウム（標準使用濃度以外にて）、すず、亜鉛などの金属と反応し、 爆発性のある水素ガスを発生する。
化学的安定性	: 通常の取扱い条件（屋内、常温）においては安定である。
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: 酸性物質との接触、直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態
混触危険物質	: アルミニウム（標準使用濃度以外）、銅・銅合金、すず、亜鉛などの金属
危険有害な分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	: 使用原料の加算式判定の結果より、区分4とした。 LD50: 300～2000mg/kg
急性毒性（経皮）	: データ不足のため分類できない。
急性毒性（吸入：ガス）	: 区分に該当しない（分類対象外）
急性毒性（吸入：蒸気）	: データ不足のため分類できない。
急性毒性（吸入：粉じん・ミスト）	: データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	: 製品のpHが11.5以上のため、区分1とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 製品のpHが11.5以上のため、区分1とした。
呼吸器感受性	: データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	: データ不足のため分類できない。

生殖細胞変異原性	: データ不足のため分類できない。
発がん性	: データ不足のため分類できない。
生殖毒性	: データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分2とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: データ不足のため分類できない。
誤えん有害性	: データ不足のため分類できない。
その他	: データなし

1 2. 環境影響情報

生態毒性	: 流出した場合は水生生物に対して影響を及ぼす。
水生環境有害性 短期（急性）	: データ不足のため分類できない。
水生環境有害性 長期（慢性）	: データ不足のため分類できない。
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし
他の有害情報	: データなし

1 3. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	
残余廃棄物	: 下水道以外の河川等、公共水域への排出は絶対に避ける。 廃棄処理をするときは適切な保護具を着用する。 関連法規ならびに地方自治体の基準に従い適正に処理する。必要に応じて、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。
汚染容器、包装	: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従い適正に処理する。必要に応じて、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。

1 4. 輸送上の注意

国連番号	: 1719
品名（国連輸送名）	: カ性アルカリ類（液体）（他に品名が明示されているものを除く。）
国連分類	: クラス8（腐食性物質）
容器等級	: III
海洋汚染物質	: 該当しない
MARPOL 73／78 附属書Ⅱ及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	: ばら積み輸送されない製品のため対象外。
HSコード	: 3402.50
国内法規制がある場合の規制情報	: 次の輸送に関する国内法規に該当するので、定められている輸送方法に従う。 危険物船舶運送及び貯蔵規則
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策:	・ 輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどがないことを確認する。 ・ 荷役作業は丁寧に行い、容器を破損しないように取り扱う。 ・ 積載にあたっては酸性物質との接触を避ける。 ・ 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 ・ 直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態での輸送は避ける。 ・ 水濡れを避ける。

1 5. 適用法令

当該法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報	
毒物及び劇物取締法	: 該当しない
化学物質管理促進法（PRT法）	: 該当しない
労働安全衛生法／通知対象物質	: 該当する
・ 水酸化ナトリウム（1～5%）	

<令和7年4月1日付 追加>

- ・ メタけい酸ナトリウム並びにその五水和物及び九水和物 (1~10%)

労働安全衛生法／表示対象物質 : 該当する

- ・ 水酸化ナトリウム (1~5%)

<令和7年4月1日付 追加>

- ・ メタけい酸ナトリウム並びにその五水和物及び九水和物 (1~10%)

労働安全衛生法／有機則 : 該当しない

労働安全衛生法／特化則 : 該当しない

労働安全衛生法／がん原性物質 : 該当しない

労働安全衛生法／皮膚等障害化学物質 : 該当する

- ・ 水酸化ナトリウム

- ・ ジナトリウム ジオキシド (オキシ) シラン；メタけい酸ナトリウム

消防法 : 該当しない

危険物船舶運送及び貯蔵規則 : 腐食性物質

海洋汚染防止法 : ばら積み輸送されない製品のため対象外。

水質汚濁防止法／水素イオン濃度 : 該当する

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 特別管理産業廃棄物

16. その他の情報

問い合わせ先 : シーバイエス株式会社

カスタマーテクニカルセンター

電話番号 : 045-640-2280 / FAX 番号 : 045-640-2216

改訂の記録 : 作成 : 2006年11月01日

改訂 : 2008年03月01日 (記載事項の変更)

2010年04月01日 (社名の変更)

2010年05月21日 (記載事項の変更)

2010年12月15日 (JIS Z 7250:2005に書式変更)

2014年07月01日 (社名の変更)

2016年04月01日 (記載事項の変更、JIS Z 7253:2012に書式変更)

2016年06月01日 (安衛法改正の為、記載事項の変更)

2018年03月01日 (製品名、記載事項の変更)

2022年01月01日 (JIS Z 7252/7253:2019に書式変更)

2024年04月01日 (安衛法改正の為、記載事項の変更)

2025年03月01日 (安衛法改正の為、記載事項の変更)

引用文献

- ・ GHS対応ガイドライン、(一財)日本化学工業協会(2019)
- ・ JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学物質等の分類方法、(一財)日本規格協会
- ・ JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)、(一財)日本規格協会
- ・ GHS分類結果データベース、(独)製品評価技術基盤機構HP(NITE)
- ・ GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報、厚生労働省職場のあんぜんサイトHP

※記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データなどに基づいて作成しており、情報の完全さ、正確さ、安全性を保証するものではありません。新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂いたします。全ての化学品には未知の危険・有害性があり得るため、ご使用の際には用途・用法に適した安全対策を実施の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。当安全データシートは、日本国内法規要件に対して作成されたものであり、他の国々における規制上の要件を満たしているわけではありません。

以上

D-2293C ホシザキ食器洗浄機専用洗剤JWS-4NHA
株式会社ニイタカ

作成日: 2024年01月17日
改訂日: 2025年03月14日

安全データシート(製品安全データシート)

【1. 化学品及び会社情報】

化学品の名称(製品名)	ホシザキ食器洗浄機専用洗剤JWS-4NHA
供給者の会社名称	株式会社ニイタカ
住所	〒532-8560 大阪市淀川区新高1-8-10
電話番号	06-6395-2717
FAX番号	06-6395-2536
緊急連絡電話番号	06-6395-6593
推奨用途	自動食器洗浄機を使用した食器・器具類の洗浄
使用上の制限	用途以外に使用しない

【2. 危険有害性の要約】

化学品のGHS分類	
物理化学的危険性	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分 4
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:気体)	区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん/ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分 1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分 2
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 2(神経系、全身毒性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 2(腎臓)
誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期(急性)	区分 3
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険有害性情報:

危険
飲み込むと有害
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
発がんのおそれの疑い
臓器の障害のおそれ(神経系、全身毒性)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(腎臓)
水生生物に有害

注意書き

[安全対策]:

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん/ミスト/蒸気を吸入しないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋/保護眼鏡/保護衣を着用すること。

[応急措置]:

飲み込んだ場合:
直ちに医師に連絡すること。
口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚(又は髪)に付着した場合:

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
医師の診察／手当てを受けること。

吸入した場合：

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合：

水で数分間注意深く洗うこと。
次に、コンタクトレンズを着用していり容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：

医師に連絡すること。

漏出物を回収すること。

密閉して保管すること。

内容物／容器を関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い廃棄すること。

[保管]：

[廃棄]：

【3. 組成及び成分情報】

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名

成分

けい酸塩

カルボン酸塩

界面活性剤

【4. 応急措置】

吸入した場合

直ちに患者を風通しのよい場所に避難させ、安静にした後、
本品または安全データシート(SDS)を持参して速やかに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

直ちに多量の水で充分に洗い流す。
液が付着した衣服や靴は直ちに脱ぐ。
速やかに医師の診断を受ける。

眼に入った場合

手当てが遅れると炎症を起こす恐れがある。
液が付着した衣服や靴は、よく洗ってから着用する。
そのまま放置すると失明の恐れがあるので、コンタクトレンズは外し、
こすらずすぐに流水で15分以上洗い流す。

飲み込んだ場合

その後、すぐに本品またはSDSを持参して眼科医の診断を受ける。
直ちに口をすすがせて多量の水を飲ませる。
意識のない場合には、口から何も与えない。
無理に吐かせないで、速やかに医師の診断を受ける。
濃い液を多量に飲み込んだ場合、手当てが遅れると生命にかかわる。

【5. 火災時の措置】

適切な消火剤

水噴霧、粉末消火薬剤

使ってはならない消火剤

知見なし

特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。周囲の設備等に散水して冷却する。

【6. 漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業の際には、必ず保護具(保護手袋、保護眼鏡、保護衣、ゴム長靴等)
を着用する。

環境に対する注意事項

屋内の場合、作業が終わるまで十分に換気を行う。
多量の場合、人を安全に退避させる。
流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように
注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに
環境へ流出しないように注意する。
電気掃除機(真空クリーナー)、ほうき等、粉じんが飛散しない方法で回収する。

【7. 取扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策

取扱場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。

安全取扱注意事項

取扱い後は手をよく洗う。
粉じんが発生しないように取扱う。
作業時は、必ず保護眼鏡及び保護手袋、ゴム長靴等を着用する。
知見なし

接触回避

保管

安全な保管条件

容器を密閉して換気の良い場所で保管する。
他のものと混同しないように保管する。

安全な容器包装材料

他の容器に移し替えて使用しない。

【8. ばく露防止及び保護措置】

保護具

呼吸用保護具

必要に応じてマスクなどを着用

手の保護具

保護手袋(不浸透性を検討する)

眼、顔面の保護具

保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

保護衣

安衛則第577条の2第2項の規定に基づき厚生労働大臣が定める濃度の基準(濃度基準値)(該当物質として)

該当物質	八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	施行日
該当しない	—	—	—

【9. 物理的及び化学的性質】

物理状態

固体

色

白色～淡黄色

臭い

原料臭

融点／凝固点

知見なし

沸点又は初留点及び沸騰範囲

知見なし

可燃性

知見なし

爆発下限及び爆発上限／可燃限界

なし

引火点

なし

自然発火点

知見なし

分解温度

知見なし

pH

11.3±0.3(0.1%水溶液、25℃)

動粘性率

知見なし

溶解度

水と任意の割合で混合

n-オクタノール／水分分配係数(log値)

知見なし

蒸気圧

知見なし

密度及び／又は相対密度

約1.70

相対ガス密度

知見なし

粒子特性

知見なし

【10. 安定性及び反応性】

反応性

アルカリ性のため、酸性物質と接触すると激しく中和反応・発熱反応を起こす。
すず、亜鉛等の金属を腐食して水素ガスを発生する。

化学的安定性

熱、光に対して比較的安定であるが、直射日光が当たる場所での保管は控える。
衝撃に対しては安定である。

危険有害反応可能性

知見なし

避けるべき条件

酸性物質、酸性タイプのアルコール製剤との接触

混触危険物質

すず、亜鉛などの金属との接触

危険有害な分解生成物

知見なし

【11. 有害性情報】

急性毒性

経口

区分4 飲み込むと有害

経皮

知見なし

吸入:気体

区分に該当しない

吸入:蒸気

知見なし

吸入:粉じん／ミスト

知見なし

皮膚腐食性／刺激性

区分1 重篤な皮膚の腐傷及び眼の損傷
皮膚を侵し、放置した場合、皮膚の深部に達しやけどとなる。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

区分1 重篤な眼の損傷
結膜や角膜が侵され、発赤、痛みを感じ、失明する可能性がある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性	
呼吸器	知見なし
皮膚	知見なし
生殖細胞変異原性	知見なし
発がん性	区分 2 発がんのおそれの疑い
生殖毒性	知見なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 2(神経系、全身毒性) 臓器の障害のおそれ(神経系、全身毒性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 2(腎臓) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(腎臓)
誤えん有害性	知見なし

【12. 環境影響情報】

生態毒性	知見なし
残留性・分解性	知見なし
生態蓄積性	知見なし
土壌中の移動性	知見なし
オゾン層への有害性	知見なし

【13. 廃棄上の注意】

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

【7. 取扱い及び保管上の注意】を参照する。

内容物を関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い廃棄する。

使い終わった容器は、よく洗ってからリサイクル又は処分する。

【14. 輸送上の注意】

国連番号	3262
品名(国連輸送名)	その他の腐食性物質(無機物)(固体)(アルカリ性のもの)
国連分類	クラス8 腐食性物質
容器等級	Ⅲ
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	【7. 取扱い及び保管上の注意】の項の記載による他、 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、 損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
国内規制がある場合の規制情報	適用法令の定めるところに従う。

【15. 適用法令】

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

労働安全衛生法(記載内容は営業秘密に相当する)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条、施行令第18条)

メタけい酸ナトリウム並びにその五水和物及び九水和物

以下は2026年4月1日以降対象(2026年4月1日施行分)

ニトリロ三酢酸三ナトリウム

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2)

メタけい酸ナトリウム並びにその五水和物及び九水和物 30%以上～40%未満

以下は2026年4月1日以降対象(2026年4月1日施行分)

ニトリロ三酢酸三ナトリウム 25%以上～35%未満

皮膚等障害化学物質(則第594条の2)

該当する(保護手袋、保護眼鏡)

ケイ酸ジナトリウム五水和物

厚生労働大臣が定める濃度の基準(濃度基準値)(則第577条の2第2項)

該当しない

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法、化管法)

ニトリロ三酢酸及びそのナトリウム塩 28%

(第一種指定化学物質)

毒物及び劇物取締法

該当しない

消防法

該当しない

【16. その他の情報】

記載内容の問い合わせ先

会社名

株式会社ニイタカ

住所	〒532-8560 大阪市淀川区新高1-8-10
電話番号	06-6395-2717
FAX番号	06-6395-2536

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。また、記載事項は通常の実験を目的としたものであるため、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。

なお、この情報は新しい知見に基づき予告なしに改訂されることがあります。

作成日: 2009年09月15日

改訂日: 2025年03月01日

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

製 品 名 : スチームコンベクションオープン専用洗剤 CES-2DHS
供給者の会社名 : シーバイエス株式会社
住 所 : 神奈川県横浜市中区山下町22番地 山下町SSKビル/〒231-0023
担 当 部 門 : カスタマーテクニカルセンター
電 話 番 号 : 045-640-2280
F A X 番 号 : 045-640-2216
推 奨 用 途 : 業務用 油汚れ用洗浄剤
使 用 上 の 制 限 : 推奨用途以外には使用しない
整 理 番 号 : T30013/T30083

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

物理化学的危険性
健康有害性

金属腐食性化学品 : 区分1
急性毒性(経口) : 区分4
皮膚腐食性/刺激性 : 区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分2 呼吸器系
環境有害性 : 該当情報なし

※上記で記載がない危険有害性は、分類できないか区分に該当しない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険
金属腐食のおそれ
飲み込むと有害
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
呼吸器系の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】
他の容器に移し替えないこと。
ミストを吸入しないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
【応急措置】
飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。
飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。
直ちに医師に連絡すること。
口をすすぐこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

【保管】

耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

【廃棄】

内容物/容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

人の健康に対する有害な影響

- ・ 吸入した場合、鼻・喉・気管支・肺を刺激し、処置が遅れるとしわがれ声、咽喉部の灼熱感、激しい咳、肺浮腫を生ずる。
- ・ 皮膚に付着した場合、強い刺激作用があり、処置が遅れると皮膚が侵され熱傷にいたる。低濃度溶液でも水分の蒸発により同様な症状を起こす。
- ・ 眼に入った場合、激しい痛みを感じ、処置が遅れるとその程度によって結膜や角膜が侵され視力低下あるいは失明にいたる。
- ・ 飲み込んだ場合、口腔・食道・胃部の灼熱感がある。濃い液を多量に飲み込んだ場合、処置が遅れると生命にかかわる。

環境への影響

- ・ 大量に流出した場合は、水生生物に対して影響を及ぼす。

物理的及び化学的危険性

- ・ 酸性物質と反応し中和熱を発生する。
- ・ アルミニウム、すず、亜鉛などの金属と反応し、爆発性のある水素ガスを発生する。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

成分	CAS RN®	官報公示整理番号 化審法・安衛法	濃度又は濃度範囲 (%)
水酸化カリウム	1310-58-3	1-369	4.9
水酸化ナトリウム	1310-73-2	1-410	4.8
溶剤	非公開	非公開	非公開
ジエチレングリコールモノフェニルエーテル	112-34-5	2-422	7.0
可溶化剤	非公開	非公開	非公開
界面活性剤	非公開	非公開	非公開
グリセリン脂肪酸エステル	非公開	非公開	非公開
染料	非公開	非公開	非公開
水	7732-18-5	—	非公開

- ・ 内分泌かく乱作用を有すると疑われる化学物質：環境省「環境ホルモン戦略計画SPEED'98」（2000年11月版）で示された物質（65種類）を使用しない。

4. 応急措置

- 吸入した場合 : ミストを吸い込んだときは、直ちに新鮮な空気の風通しのよい場所に移動し、鼻をかんだり、よくうがいをする。何らかの異状を感じたときは、直ちに医師の処置を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに多量の水でぬめり感がなくなるまで十分に洗い流す。衣服や靴などに付いたときは、直ちに脱ぎ皮膚を多量の水でぬめり感がなくなるまで十分に洗い流す。何らかの異状を感じたときは、直ちに医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに流水で15分以上洗い流す。コンタクトレンズは外す。その後、直ちに医師の処置を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせようとしない。意識のないときは口から何も与えない。ただし、牛乳アレルギーの人には牛乳を与えない。
- その他 : 使用中、眼に異状を感じたり、せき込んだり、気分が悪くなったときは、直ちに使用を止めてその場から離れ、洗眼、うがいをする。その後、直ちに医師の処置を受ける。

いずれの場合も、医師への受診時には製品または安全データシートを持参する。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水、泡、粉末、二酸化炭素などの一般消火剤が使用できる。
 使ってはならない消火剤 : 情報なし
 火災時の特有の危険有害性 : 情報なし
 特有の消火方法 : 周辺火災の場合はすみやかに安全な場所に移す。
 移動ができない場合は、風上より容器周辺に散水して冷却する。
 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防装置 : 消火作業では適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 適切な保護具（保護眼鏡、保護手袋、保護靴、保護衣、保護マスク等）を着用する。
 漏出場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
 環境に対する注意事項 : 雨水溝、河川、海上などに多量に排出されないように注意する。
 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : スクイジーなどを用いてできる限り空容器などに回収する。
 回収した跡、または回収できないものは、多量の水で十分に洗い流す。
 洗浄水は、酸（希硫酸など）で中和してから排出する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い（技術的対策／安全取扱い注意事項／接触回避／衛生対策）

- 作業や製品容器の取扱い時は必ず適切な保護具（保護眼鏡、保護手袋、保護靴、保護衣、保護マスク等）を着用する。
- 使用時は換気を良くする。
- キャップを開けるときの液が飛び出すことがある。また、容器を移動するときはキャップをしっかり閉める。緩んでいると液が跳ねて眼や皮膚に付くことがある。
- 飛散した液やミストを吸い込んだり、眼に入らないようにする。
- 用途以外には使用しない。
- 他の薬剤、洗浄剤などとは絶対にまぜない。
- 他の容器に移し替える場合は、弊社指定の専用容器を使用する。誤飲等事故のおそれがあるので、飲料用の容器を含む他の容器に移し替えたり小分けしない。
- スプレーヤーなどで使用する場合は、必ず噴射口を下方に向け、目線よりも高い所で噴射しない。顔より高い箇所に使用するときは、液を布やスポンジにつけて使用する。
- アルミニウム、銅・銅合金、すず製の物品の洗浄、接液を避ける。
- 材質によっては影響を与えることがあるので、予め見えない部分で異常の有無を確認してから使用する。
- 倒したり、こぼしたりしないように注意する。
- 使い終わった容器は、充分に洗ってから処理する。

保管（安全な保管条件／安全な容器包装材料）

- 直射日光、40℃以上、多湿及び凍結のおそれのある場所を避けて密閉して保管する。
- 子供の手の届かないところに保管する。
- 酸性物質と同じ場所に保管しない。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 : 設定されていない。

濃度基準値

: ジエチレングリコールモノブチルエーテルとして <令和7年10月1日付 追加>
 8時間濃度基準値 : 60 mg/m³

許容濃度 : 水酸化カリウムとして

日本産衛学会（2014年版）：最大許容濃度 2 mg/m³
 水酸化ナトリウムとして

日本産衛学会（2014年版）：最大許容濃度 $2\text{mg}/\text{m}^3$
ジエチレングリコールモノブチルエーテルとして

日本産衛学会（2014年版）：未設定

ACGIH（2012年版）：TWA 10ppm

設備対策：ミスト、蒸気などが滞留しないように局所換気装置または全体換気装置を設置する。

取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸器用保護具：保護マスク
手の保護具：保護手袋（ゴム手袋など）
眼、顔面の保護具：保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具：保護靴（ゴム長靴など）、保護衣

（注）使用方法や使用環境などに応じた適切な保護具を選択してください。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態：液体
色：褐色
臭い：特異臭
pH：12.0以上（原液、25℃）
密度及び／又は相対密度：1.14（20℃）
動粘性率：データなし
溶解度：水溶性
融点／凝固点：0℃以下
沸点又は初留点及び沸騰範囲：90℃以上
引火点：なし（不燃性）
可燃性：データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界：データなし
蒸気圧：データなし
相対ガス密度：データなし
n-オクタノール：データなし
／水分分配係数
分解温度：データなし
自然発火点：データなし
粒子特性：データなし

（注）数値はいずれも代表値で表示

10. 安定性及び反応性

反応性：酸性物質と反応し中和熱を発生する。
アルミニウム、すず、亜鉛などの金属と反応し、爆発性のある水素ガスを発生する。
化学的安定性：通常の取扱い条件（屋内、常温）においては安定である。
危険有害反応可能性：データなし
避けるべき条件：酸性物質との接触、直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態
混触危険物質：アルミニウム、銅・銅合金、すず、亜鉛などの金属
危険有害な分解生成物：データなし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）：使用原料の加算式判定の結果より、区分4とした。
LD50： $300\sim 2000\text{mg}/\text{kg}$
急性毒性（経皮）：データ不足のため分類できない。
急性毒性（吸入：ガス）：区分に該当しない（分類対象外）
急性毒性（吸入：蒸気）：データ不足のため分類できない。

急性毒性（吸入：粉じん・ミスト）	： データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	： 製品のpHが11.5以上のため、区分1とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	： 製品のpHが11.5以上のため、区分1とした。
呼吸器感作性	： データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	： データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	： データ不足のため分類できない。
発がん性	： データ不足のため分類できない。
生殖毒性	： データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	： 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分2とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	： データ不足のため分類できない。
誤えん有害性	： データ不足のため分類できない。
その他	： データなし

1 2. 環境影響情報

生態毒性	： 流出した場合は水生生物に対して影響を及ぼす。
水生環境有害性 短期（急性）	： データ不足のため分類できない。
水生環境有害性 長期（慢性）	： データ不足のため分類できない。
残留性・分解性	： データなし
生体蓄積性	： データなし
土壌中の移動性	： データなし
オゾン層への有害性	： データなし
他の有害情報	： データなし

1 3. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	
残余廃棄物	： 下水道以外の河川等、公共水域への排出は絶対に避ける。 廃棄処理をするときは適切な保護具を着用する。 関連法規ならびに地方自治体の基準に従い適正に処理する。必要に応じて、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。
汚染容器、包装	： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従い適正に処理する。必要に応じて、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。

1 4. 輸送上の注意

国連番号	： 1760
品名（国連輸送名）	： その他の腐食性物質（液体）（他の危険性を有しないもの）
国連分類	： クラス8（腐食性物質）
容器等級	： III
海洋汚染物質	： 該当しない
MARPOL 73/78 附属書Ⅱ及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	： ばら積み輸送されない製品のため対象外。
HSコード	： 3402.50
国内法規制がある場合の規制情報	： 次の輸送に関する国内法規に該当するので、定められている輸送方法に従う。 危険物船舶運送及び貯蔵規則
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：	・ 輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどが無いことを確認する。 ・ 荷役作業は丁寧に行い、容器を破損しないように取り扱う。 ・ 積載にあたっては酸性物質との接触を避ける。 ・ 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 ・ 直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態での輸送は避ける。 ・ 水濡れを避ける。

1 5. 適用法令

当該法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

毒物及び劇物取締法 : 該当しない

化学物質管理促進法(PRTTR法) : 該当する

- ・ 第一種指定化学物質 管理番号: 627 (7.0%)

ジエチレングリコールモノブチルエーテル

労働安全衛生法/通知対象物質 : 該当する

- ・ ジエチレングリコールモノブチルエーテル (7.0%)
- ・ 水酸化カリウム (4.9%)
- ・ 水酸化ナトリウム (4.8%)

労働安全衛生法/表示対象物質 : 該当する

- ・ ジエチレングリコールモノブチルエーテル (7.0%)
- ・ 水酸化カリウム (4.9%)
- ・ 水酸化ナトリウム (4.8%)

労働安全衛生法/有機則 : 該当しない

労働安全衛生法/特化則 : 該当しない

労働安全衛生法/がん原性物質 : 該当しない

労働安全衛生法/皮膚等障害化学物質 : 該当する

- ・ 水酸化カリウム
- ・ 水酸化ナトリウム

消防法 : 該当しない

危険物船舶運送及び貯蔵規則 : 腐食性物質

海洋汚染防止法 : ばら積み輸送されない製品のため対象外。

水質汚濁防止法/水素イオン濃度 : 該当する

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 特別管理産業廃棄物

16. その他の情報

問い合わせ先 : シーバイエス株式会社

カスタマーテクニカルセンター

電話番号: 045-640-2280/FAX番号: 045-640-2216

改訂の記録 : 作成 : 2009年09月15日

改訂 : 2010年12月15日 (JIS Z 7250:2005に書式変更)

2014年07月01日 (社名の変更)

2016年06月01日 (記載事項の変更、JIS Z 7253:2012に書式変更)

2017年03月01日 (安衛法改正の為、記載事項の変更)

2022年01月01日 (JIS Z 7252/7253:2019に書式変更)

2023年02月01日 (化管法改正の為、記載事項の変更)

2023年09月07日 (記載事項の変更)

2023年10月10日 (記載事項の変更)

2024年04月01日 (安衛法改正の為、記載事項の変更)

2024年04月12日 (記載事項の変更)

2025年03月01日 (安衛法改正の為、記載事項の変更)

引用文献

- ・ GHS対応ガイドライン、(一財)日本化学工業協会(2019)
- ・ JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学物質等の分類方法、(一財)日本規格協会
- ・ JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)、(一財)日本規格協会
- ・ GHS分類結果データベース、(独)製品評価技術基盤機構HP(NITE)
- ・ GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報、厚生労働省職場のあんぜんサイトHP

※記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データなどに基づいて作成しており、情報の完全さ、正確さ、安全性を保証するものではありません。新たな情報入手時には追加・修正を行い改訂いたします。全ての化学品には未知の危険・有害性があり得るため、ご使用の際には用途・用法に適した安全対策を実施の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。当安全データシートは、日本国内法規要件に対して作成されたものであり、他の国々における規制上の要件を満たしているわけではありません。

以上

安全データシート

整理番号【980】

制定日 2023/10/10

改訂日 2023/10/10

1.化学品及び会社情報

化学品

化学品の名称

Eー手洗い用石けん液コンク

<販売名:シャボネット石鹸液ユ・ム>

供給者情報

会社

サラヤ株式会社

住所

大阪府大阪市東住吉区湯里2-2-8

担当部門

営業本部

電話番号

06-6797-2525

緊急時連絡番号

06-6705-1013

推奨用途及び使用上の制限:

推奨用途:皮ふの殺菌・消毒・清浄。業務用手洗い石けん液。

使用上の制限:推奨用途以外の用途に使用しない。

2.危険有害性の要約

化学品のGHS分類:分類できない。

3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別:混合物

成分:

(括弧内はラベル表記内容)

イソプロピルメチルフェノール(イソプロピルメチルフェノール)、カリ石けん、金属イオン封鎖剤(エデト酸塩)、

色素(緑色201号、緑色204号)

4.応急処置

皮膚に付着した場合:

水で洗い流す。

眼に入った場合:

こすらずに(コンタクトレンズは外し)すぐ流水で15分以上洗い流す。
飲み込んだ場合:
吐かずに口をすすぎ、多量の水を飲む等の処置をする。
いずれの場合も、異常が残る場合はSDSまたは商品を持参し、速やかに医師に相談する。

5.火災時の措置

適切な消火剤:
泡、粉末、炭酸ガスなど。
使ってはならない消火剤:
情報なし
特有の消火方法:
通常は燃焼しないが、万一、周辺の状況により燃焼した場合は、上記の消火剤による。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:
作業時には、必要に応じて保護具(保護眼鏡、保護手袋、保護着等)を着用する。
環境に対する注意事項:
原液の環境への放出は避けること。
封じ込め及び浄化の方法及び機材:
少量の場合は、布切れ等で拭き取り、大量の場合は、蓋付空容器へ回収する。

7.取り扱い及び保管上の注意

取り扱い:
技術的対策:
特記事項なし
安全取扱注意事項:
かぶれたり、刺激を感じたときは使用を中止し、医師に相談する。
湿疹、皮膚炎(かぶれ、ただれ)等の皮膚障害があるときは、悪化させる恐れがあるので使用しない。
接触回避:
情報なし
保管
安全な保管条件:
密栓をして保管する。
小児や認知症の方の手の届かないところに保管する。
極端に高温または低温の場所、直射日光の当たる場所には保管しない。
安全な容器包装材料:

専用のプラスチック容器を使用する。

8.ばく露防止措置及び保護措置

許容濃度等:設定されていない。

設備対策:情報なし。

保護具:必要に応じて保護手袋、保護眼鏡を着用する。

9.物理的及び化学的性質

物理状態:液体

色:緑色、透明

臭い:無臭～わずかに原料臭

沸点又は初留点及び沸騰範囲:情報なし

可燃性:情報なし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界:情報なし

引火点:情報なし

自然発火点:情報なし

分解温度:情報なし

pH: (10%水溶液) 10～11

(原液) 12～13

動粘性率:情報なし

蒸気圧:情報なし

密度及び/又は相対密度: 1.04 (20℃)

相対ガス密度:情報なし

粒子特性:情報なし

純石鹼分 35～39%

10.安定性及び反応性

反応性:常温においては安定である。

化学的安定性:常温においては安定である。

危険有害性反応可能性:情報なし

避けるべき条件:情報なし

混蝕危険物質:情報なし

危険有害な分解生成物:情報なし

11.有害性情報

急性毒性:分類できない
皮膚腐食性/刺激性:分類できない
眼に対する重篤な損傷/刺激性:分類できない
呼吸器感作性又は皮膚感作性:分類できない
生殖細胞変異原性:分類できない
発がん性:分類できない
生殖毒性:分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露):分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露):分類できない
誤えん有害性:分類できない

12.環境影響情報

生態毒性:情報なし
残留性・分解性:
生分解性 99%以上

(1000倍希釈液にて)

全窒素 0.47mg/L

COD 138ppm

BOD 816ppm

生態蓄積性:情報なし

土壤中の移動性:情報なし

オゾン層への有害性:情報なし

全リン酸塩 検出せず

ノニルフェノール系非イオン界面活性剤を含め、環境庁が内分泌攪乱物質
(いわゆる環境ホルモン)と位置付けした 指定物質は一切配合していない。

13.廃棄上の注意

化学品, 汚染容器および包装の安全で, かつ, 環境上望ましい廃棄, またはリサイクルに関する情報
「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと
残余廃棄物:大量の水で希釈し処理する。あるいは、廃棄物業者に処理を依頼する。
使用済容器:管轄自治体のルールに従い処理する。

14.輸送上の注意

「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

国際規制

国連分類:情報なし

国連番号:情報なし

引火性液体に該当しない。

運搬する場合には、飛散、漏洩、流出、又は浸出を防ぐのに必要な措置を講じなければならない。

15.適用法令

労働安全衛生法(安衛法):通知対象物質に該当しない

化学物質管理促進法(PRTR法):該当しない

毒物及び劇物取締法:該当しない

医薬品医療機器等法:医薬部外品に該当

16.その他の情報

- ・本SDSはJIS Z 7253:2019に準拠しています。
 - ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
 - ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
 - ・注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですが、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
 - ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。
-

安全データシート

整理番号【558-6】

制定日 2014/03/11

改訂日 2025/05/07

1. 化学品及び会社情報

化学品

化学品の名称 アルペットHN

供給者情報

会社 サラヤ株式会社

住所 大阪府大阪市東住吉区湯里2-2-8

担当部門 営業本部

電話番号 06-6797-2525

緊急時連絡番号 06-6705-1013

推奨用途及び使用上の制限:

推奨用途: 食品の品質保持、機器類の除菌。業務用エタノール製剤。

使用上の制限: 推奨用途以外の用途に使用しない。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類:

物理化学的危険性:

引火性液体: 区分2

健康有害性:

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分2A

生殖毒性: 区分1A

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分3(気道刺激性)

区分3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分1(肝臓)

区分2(中枢神経系)

GHSのラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語: 危険

危険有害性情報:

引火性の高い液体および蒸気／強い眼刺激／呼吸器への刺激のおそれ／
眠気またはめまいのおそれ／生殖能または胎児への悪影響のおそれ／
長期にわたる、または反復ばく露による肝臓の障害／
長期にわたる、または反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ

注意書き:

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地しアースを取ること。
防爆型の機器を使用すること。
火災を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
屋外または換気のよい場所でのみ使用すること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

皮ふ(または髪)に付着した場合:

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮ふを流水で洗うこと。

吸入した場合:

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合:

水で数分間注意深く洗うこと。

次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診断、手当を受けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師の診断、手当を受けること。

気分が悪いときは、医師の診断、手当を受けること。

火災の場合:消火するために、5. 火災時の措置を参考のこと。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

涼しいところに置くこと。施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を自治体のルールに従い廃棄すること。

GHS分類に該当しない他の危険有害性:

引火しやすい液体、蒸気は空気と一定量混合すると爆発性ガスとなる。
工業的には比較的無害の溶剤とみなされるが、蒸気を吸入すると
麻酔剤として働き、繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、めまい、
感覚鈍磨、頭痛などを起こす。

3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別:混合物

成分:

エタノール、グリセリン脂肪酸エステル、グリセリン、乳酸ナトリウム

化学名または一般名:

エタノール(CAS番号64-17-5)67.1w/w%含有

4.応急処置

吸入した場合:

直ちに患者を空気の新鮮な場所に移し、安静にする。

ひどい場合は直ちに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合:

刺激を感じた場合は水で洗い流す。

眼に入った場合:

すぐに大量の水またはぬるま湯で洗い流す。

コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。

症状が重い場合には眼科医の手当てを受ける。

飲み込んだ場合:

水を飲ませて、医師の手当を受ける。

5.火災時の措置

適切な消火剤:

水、粉末、炭酸ガス、泡(耐アルコール泡)

使ってはならない消火剤:

棒状放水

火災時の特定の危険有害性:

少量の水での消火は、火災を拡大させる恐れがある。

特有の消火方法:

初期消火の場合、大量の水を噴霧、又は上記の消火剤による消火を行う。

大規模火災発生時は、大量の水を噴霧または泡消火剤等による空気遮断にて消火を行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置:

防災耐熱性保護具、マスク等

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

保護眼鏡、ゴム手袋等を着用し、接触および吸入を避けること。

環境に対する注意事項：

原液の環境への放出は避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：

少量の場合は、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。

大量の場合は、漏出液を密閉式の空容器にできるだけ回収し、

回収できなかった場所へは大量の水で洗い流す。

二次災害の防止策：

浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い：

技術的対策：

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項：

取り扱う場合、換気を十分に行う。

火気に近づけない。

移し替える場合、専用の容器にその品名と、注意事項を明記する。

キャップを開けると液が飛び出す恐れがある。

また、容器を移動するときはキャップをしっかりと閉める。

緩んでいると、液が跳ねて目や皮ふにつく恐れがある。

接触回避：

『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管

安全な保管条件：

直射日光の当たらない、温度の低いところに密栓し保管する。

小児や認知症の方の手の届くところに置かない。

倒れたり、こぼれたりすることのないような場所に保管する。

取り扱う設備のある場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの、

又は酸化性のものを置かない。

消防法上の貯蔵設備で行い、通風をよくし蒸気が滞留しないようにする。

また、指定数量未満のものについても、火気その他危険な場所から遠ざけ

通風をよくし、温度、湿度、遮光に注意し、冷暗所に密栓保管する。

指定数量については、地方自治体の条例により定められていることがあるため、

管轄の消防署に確認する。

非危険物又は消防法の第1類および第6類の危険物と混合貯蔵を禁止する。

安全な容器包装材料：

専用のプラスチック容器を使用する。

8.ばく露防止措置及び保護措置

許容濃度等:設定されていない

設備対策:取扱いについては、火気のない換気のよい場所で行う。

照明設備は防爆型のものを使用する。

保護具:状況に応じて、保護マスク、保護メガネおよび保護手袋を着用する。

9.物理的及び化学的性質

物理状態:液体

色:無色透明

臭い:わずかに柑橘様芳香のあるアルコール臭

沸点又は初留点及び沸騰範囲:情報なし

可燃性:情報なし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界:情報なし

引火点:21.0℃(タグ密閉式)

自然発火点:情報なし

分解温度:情報なし

pH:6.5～7.5

動粘性率:情報なし

蒸気圧:情報なし

密度及び/又は相対密度:0.874～0.884(15℃)

相対ガス密度:情報なし

粒子特性:情報なし

10.安定性及び反応性

反応性:常温においては安定である。

化学的安定性:常温においては安定である。

危険有害性反応可能性:情報なし

避けるべき条件:火気その他発火源への接触、衝撃、高温を避けること。

混蝕危険物質:情報なし

危険有害な分解生成物:情報なし

11.有害性情報

急性毒性:分類できない

皮膚腐食性/刺激性:分類できない

眼に対する重篤な損傷/刺激性:区分2A(強い眼刺激)
呼吸器感作性又は皮膚感作性:分類できない
生殖細胞変異原性:分類できない
発がん性:分類できない
生殖毒性:区分1A(生殖能または胎児への悪影響のおそれ)
特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分3(呼吸器への刺激のおそれ、
眠気またはめまいのおそれ)
特定標的臓器毒性(反復ばく露):区分1(肝臓の障害)
区分2(中枢神経系の障害のおそれ)
誤えん有害性:分類できない

12.環境影響情報

生態毒性:情報なし
残留性・分解性:情報なし
生態蓄積性:情報なし
土壤中の移動性:情報なし
オゾン層への有害性:情報なし

ノニルフェノール系非イオン界面活性剤を含め、環境庁が内分泌攪乱物質
(いわゆる環境ホルモン)と位置付けした 指定物質は一切配合していない。

13.廃棄上の注意

化学品, 汚染容器および包装の安全で, かつ, 環境上望ましい廃棄, またはリサイクルに関する情報
「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと
残余廃棄物:廃棄物処理業者に処理を依頼する。
使用済容器:内容物を水洗いしてから自治体のルールに従い処理する。

14.輸送上の注意

「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと
国際規制
国連分類:引火性液体(クラス3、容器等級Ⅱ)
国連番号:1170
国内規制:
消防法により、第1類および第6類との混載禁止。
輸送時はイエローカードを保持すること。

15.適用法令

労働安全衛生法(安衛法):

名称等を表示すべき危険物及び有害物 法第57条、施行令第18条

名称等を通知すべき危険物及び有害物 法第57条の2、施行令第18条の2

・エタノール 67.1%

化学物質管理促進法(PRTR法):該当しない

航空法:施行規則第194条 3 引火性液体

毒物及び劇物取締法:該当しない

消防法:危険物第4類アルコール類(エタノール) 水溶性・危険等級II

医薬品医療機器等法:該当しない

食品衛生法:食品添加物

16.その他の情報

参考文献

NITE-Gmiccs GHS混合物分類判定ラベル/SDS作成支援システム

- ・本SDSはJIS Z 7253:2019に準拠しています。
 - ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
 - ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
 - ・注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですが、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
 - ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。
-

安全データシート

1.製品及び会社情報

製品名	： 次亜塩素酸ナトリウム（次亜塩素酸ソーダ）
供給者の会社名称	： 共立機巧株式会社
住所	： 名古屋市中村区岩塚本通3-3
部門名	： 薬品課
電話番号	： 052-412-5111
FAX番号	： 052-412-9000
緊急連絡電話番号	： 052-414-1111
推奨用途及び 使用上の制限	： 本製品は業務用(工業用)で、主な用途は 紙・パルプ、繊維漂白、 上・下水道の水処理(滅菌剤)です。食品用・医療用および 農薬用その他特殊用途に使用される場合には、貴社にて事前に安 全性をご確認の上、ご使用下さい。体内に埋植注入したり、また は体内に本製品の一部が残留する恐れのある用途には使用しない で下さい。

2.危険有害性の要約

【GHS分類】

物理的危険性

爆発物	： 区分に該当しない
可燃性ガス	： 区分に該当しない
エアゾール	： 区分に該当しない
酸化性ガス	： 区分に該当しない
高压ガス	： 区分に該当しない
引火性液体	： 区分に該当しない
可燃性固体	： 区分に該当しない
自己反応性化学品	： 区分に該当しない
自然発火性液体	： 区分に該当しない
自然発火性固体	： 区分に該当しない
自己発熱性化学品	： 区分に該当しない

次亜塩素酸ナトリウム(次亜塩素酸ソーダ)

2/23

作成日：1998/05/19

改訂日：2022/05/27

水反応可燃性化学品	： 区分に該当しない
酸化性液体	： 分類できない
酸化性固体	： 区分に該当しない
有機過酸化物	： 区分に該当しない
金属腐食性物質	： 区分1
鈍性化爆発物	： 分類できない

健康有害性

急性毒性(経口)	： 区分に該当しない
急性毒性(経皮)	： 区分に該当しない
急性毒性(吸入:気体)	： 区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気)	： 分類できない
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	： 分類できない
皮膚腐食性/刺激性	： 区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	： 区分1
呼吸器感作性	： 分類できない
皮膚感作性	： 区分に該当しない
生殖細胞変異原性	： 区分に該当しない
発がん性	： 区分に該当しない
生殖毒性	： 区分に該当しない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	： 区分3（気道刺激性）
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	： 分類できない
誤えん有害性	： 分類できない

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性)	： 区分1
水生環境有害性 長期(慢性)	： 区分1
オゾン層への有害性	： 分類できない

【GHSラベル要素】

絵表示



注意喚起語

： 危険

危険有害性情報

： 金属腐食のおそれ (H290)

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 (H314)
 呼吸器への刺激のおそれ (H335)
 水生生物に非常に強い毒性 (H400)
 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性 (H410)

注意書き

[安全対策] : 他の容器に移し替えないこと。(P234)
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)
 取扱い後は手をよく洗うこと。(P264)
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
 環境への放出を避けること。(P273)
 適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 (P280)

[応急措置] : 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 (P301+P330+P331)
 皮膚(または髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て
 脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
 (P303+P361+P353)
 吸入した場合：被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸し
 やすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクト
 レンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗
 浄を続けること。(P305+P351+P338)
 皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入し
 た場合: 直ちに医師に連絡すること。(P310)
 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。(P312)
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。(P363)
 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。
 (P390)
 漏出物を回収すること。(P391)

[保管] : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 (P403+P233)
 施錠して保管すること。(P405)

耐腐食性、耐腐食性内張りのある容器に保管すること。(P406)

[廃棄] : 内容物や容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

重要な徴候及び想定される

非常事態の概要 : 情報なし

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

一般名 : 次亜塩素酸ナトリウム

化学物質等の名称	含有量 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
次亜塩素酸ソーダ	有効塩素濃度 ≥ 12	NaClO	(1)-237	公表	7681-52-9

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 : 情報なし

4.応急措置

吸入した場合 : 分解して発生した塩素ガスを吸入した場合は、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、次のような処置をする。

- 1)咳が出る程度のときは、空気の新鮮な風通しのよい場所で、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 2)塩素ガスで眼を痛めたときは、直ちに水道水で数分間注意深く洗眼し、医師の診断、手当てを受け、その指示に従うこと。
- 3)重症の場合は、直ちに医師の診断、手当てを受け、その指示に従うこと。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

直ちに医師に連絡すること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：直ちに医師に連絡すること。
診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
汚染された衣服を全て脱ぐこと。多量の水かシャワーで皮膚を洗い流す。

眼に入った場合：直ちに水で数分間注意深く洗うこと(瞼の隅々まで)。
次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡し、診察を受けること。
清潔な微温湯が容易に得られる場合には疼痛を軽減する点で、冷却洗浄よりも効果がある。

飲み込んだ場合：直ちに口の中を洗浄すること。
無理に吐かせないこと。
直ちに医師に連絡すること。
診断、手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状
の最も重要な徴候症状：情報なし

応急措置をする者の保護：情報なし

医師に対する特別な注意事項：情報なし

5.火災時の措置

適した消火剤：大量の水
使ってはならない消火剤：炭酸ガス、酸性の粉末消火剤
(酸との接触により有害な塩素ガスを発生する)
消火を行う者の保護：消火作業の際は、ゴム製防護衣、ゴム製保護手袋、ゴーグル型保護メガネ、ゴム長靴、空気呼吸器など適切な保護具を着用する。

- 特有の危険有害性 : 加熱や燃焼により分解し、有毒で腐食性の塩素ガスを生じる。
- 特有の消火方法 : 移動できない場合は、容器およびその周辺に注水して冷却する。危険でなければ危険区域から容器を移動する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項 : きわめて腐食性が強いので、必ず保護具(8項『保護具』参照)を保護具及び緊急時措置 着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

環境に対する注意事項 : 多量に漏れた場合は、製品が河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように回収、詰め替え、還元分解などの措置を講ずる。環境への放出を避けること。

回収・中和方法

少量の場合 : 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。少量漏出時に漏洩した薬品を拭き取る際の作業着および布巾は綿、麻、レーヨン、ポリエステル製のいずれかを使用する。

紙、毛、絹、ナイロン、アセテート、ウレタン製およびこれらの混紡品は使用してはならない。

大量の場合 : 広範囲へ広がらないようにすること。
(例、土嚢などで堰を設置する)
盛土で囲うなどにより 拡散防止するなどの処置を行う。
漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。流出防止用の堤防を作り、空容器に回収する。できるだけ取り除いたあと、漏出した場所は大量の水で洗い流す。
必要ならば亜硫酸ナトリウムを用いて中和・還元してから多量の水で洗い流す。
この場合、濃厚な廃液が環境へ流入しないように注意する。

封じ込め及び浄化方法 : 危険でなければ漏れを止める。
及び機材 流出防止用の堤防を作り、空容器に回収する。できるだけ取り除いたあと、漏出した場所は大量の水で洗い流す。

必要ならば亜硫酸ナトリウムを用いて中和・還元してから
多量の水で洗い流す。
この場合、濃厚な廃液が環境へ流入しないように注意する。

二次災害の防止策：酸との混合は有毒なガスを発生するので行ってはならない。
周辺地域の住民に直ちに警告し、危険地域から避難させる。
周辺環境に影響を及ぼす可能性のある場合は、
当該機関および当社の緊急連絡先へ通報する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、
(局所排気・全体換気等) 保護具を着用し、眼、皮膚への接触を避ける。
「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の
局所排気、全体換気を行う。

注意事項：すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

安全取扱注意事項：屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
「2.危険有害性情報」を熟知し、人体との接触を避けること。
可燃物、アセチレン、エチレン、水素、アンモニア、
微細金属粉と接触させないこと。
作業中に温度を上昇させないこと。
酸と接触したり、pHが低下すると塩素ガスの発生が起きる
ので注意が必要である。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
接触、吸入または飲み込まないこと。
眼および皮膚との接触を避けること。
少量漏出時に漏洩した薬品を拭き取る際の作業着および
布巾は綿、麻、レーヨン、ポリエステル製のいずれかを
使用する。紙、毛、絹、ナイロン、アセテート、ウレタン製
およびこれらの混紡品は使用してはならない。

接触回避 : 「10.安定性及び反応性」を参照。

衛生対策 : この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。

保管

技術的対策 : 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
適用法令を遵守する。

混触危険物質 : 「10.安定性及び反応性」を参照。

安全な保管条件 : 直射日光を避け、品質(有効塩素)維持のため、20℃以下に保ち貯蔵するのが望ましい。
重金属類(コバルト、ニッケル、クロム、銅、鉄など)が存在するとそれらが触媒となり、分解を促進するため、貯蔵する容器内にこれらの重金属類が混入しないようにする。
酸、金属類、可燃物等から離して保管する。
貯槽は樹脂製または鉄板製のタンクの内面に耐食性材料をライニングまたはコーティングしたもの、あるいは耐食性材料で製作したものを使用する。腐食性が強いので、鉄製のものは使用できない。チタンあるいは硬質塩化ビニルなどの樹脂系のものも使用してよい。
ゴム製のものは長期間に膨潤するものがあるので注意を要する。
貯槽への受入配管は、他の配管と区別し、次亜塩素酸ナトリウム用受入口には見やすい個所に品名を表示する。

安全な容器包装材料 : 塩ビ、ポリエチレン、チタン、PTFE等の材質を使用する。
腐食性があるので、鉄製の容器は使用しない。
アルミ製の容器は使用しない。
金属類、天然繊維の多くを侵す。

8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度 : 未設定

許容濃度 : 未設定(2020年度)
(日本産業衛生学会)

許容濃度(ACGIH) : 未設定(2019年度)

設備対策 : 局所排気および全体排気設備を設けること。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する事。

保護具

呼吸用保護具 : ハロゲンガス用防塵マスク、空気呼吸器

手の保護具 : ゴム製保護手袋

眼の保護具 : 化学用ゴーグルまたはフェイスシールド

適切な眼用保護具：保護眼鏡、ゴーグル顔面保護シールド

皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性保護衣、ゴム長靴、ゴム前掛

9.物理的及び化学的性質

外観

物理的状态、形状 : 水溶液.液体

色 : 橙黄色.淡黄緑色の透明な液体

臭い : 塩素臭

pH : 12~14

融点 : なし

沸点 : データなし

引火点 : データなし

燃焼性(固体、気体) : 非該当

燃焼又は爆発範囲(上限、下限) : データなし

蒸気圧 : データなし

密度 : データなし

相対密度	: 1.15 g/cm ³ (12.28重量%、20°C)
溶解度	: 水に可溶
n-オクタノール/水の分配係数 (log Kow)	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし
粘度(粘性率)	: データなし
可燃性	: 非該当
相対ガス密度	: データなし
爆発限界(vol%)	: データなし
粘性率	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子サイズ	: 該当しない
粒径分布	: 該当しない
粒子形状	: 該当しない
粒子アスペクト比	: 該当しない
粒子比表面積	: 該当しない

10.安定性及び反応性

反応性 : 酸との混合により塩素ガスを発生する。

化学的安定性 : 空気、熱、光、金属などに極めて不安定で、
放置すると徐々に分解し有効塩素を失う。
常温でも不安定な物質であり、保存中に徐々に自然分解する。
次亜塩素酸ナトリウム溶液のpHが低下すると分解が促進される。

危険有害反応可能性 : 自己反応性、爆発性なし。

避けるべき条件 : 腐食性があるので、鉄製の容器は使用しない。
アルミ製の容器は使用しない。
アミン類やアンモニアと反応して
有害で爆発性の三塩化窒素を発生する。
酸と接触したり、pHが低下すると塩素ガスが発生する。

混触危険物質 : 酸、アミン類、アンモニア

危険有害な分解生成物 : 塩素ガスが発生する。

11.有害性情報

急性毒性(経口) : LD₅₀経口が8,800mg/kgであるから、
区分に該当しないとした。
LD₅₀ 経口 ラット: 8,800 mg/kg 有効塩素12.5%溶液

急性毒性(経皮) : LD₅₀経皮が10,000mg/kgであるから、
区分に該当しないとした。
LD₅₀ 経皮 ラット: > 10,000 mg/kg

急性毒性(吸入:気体) : GHS定義で液体であるので、区分に該当しない。

急性毒性(吸入:蒸気) : 情報なし

急性毒性(吸入:粉じん) : 情報なし

急性毒性(吸入:ミスト) : 情報なし

皮膚腐食性/刺激性 : pHが11.5以上であるので、区分1とした。

眼に対する重篤な損傷性/
眼刺激性 : pHが11.5以上であるので、区分1とした。

呼吸器感作性 : データなし

皮膚感作性 : 【分類根拠】
(1)～(3)より、区分に該当しないとした。
【根拠データ】
(1) 本物質のOECD TG 406に準拠したモルモットを
用いた皮膚感作性試験(ビューラー法、適用濃度40%)
で、陰性と報告されている(REACH登録情報

(Access on September 2020))。

(2) 本物質を8%含有する試料のモルモットを用いた皮膚感作性試験で感作性反応はみられていない(EURAR(2007)、AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。

(3) 本物質と界面活性剤の混合液のモルモットを用いた皮膚感作性試験(ビューラー法)で感作性はみられていない(EURAR(2007))。

【参考データ等】

(4) 225人の接触皮膚炎患者へのパッチテストで1例のみ、本物質で陽性反応を示した(EURAR(2007))。

(5) 69人の接触皮膚炎患者へのパッチテストで陽性反応はみられていない。その他、20人及び40人のヒトパッチテストの結果でも、明確な結果は得られていない(EURAR(2007)、AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。

生殖細胞変異原性

： 【分類根拠】

(1)、(2)より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) in vivoでは、マウス腹腔内又は経口投与の骨髄を用いた小核試験で陰性、マウス経口投与の骨髄を用いた染色体異常試験で陰性、ラット経口投与のDNA損傷試験で陰性の報告がある(EURAR(2007)、NTP TR392(1992)、Patty(6th, 2012))。

(2) in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陰性、陽性の結果、哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験で陰性、陽性の結果(EURAR(2007)、NTP TR392(1992))、姉妹染色分体交換試験で陽性の報告がある(EURAR(2007))。

発がん性

： 【分類根拠】

(1)～(3)より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) 国内外の分類機関による既存分類では、IARCで

本物質を含む次亜塩素酸塩としてグループ3(IARC 52 (1991))に分類されている。

(2) 雌雄のラット及びマウスに本物質(有効塩素濃度14%)をラットは104週間、マウスは103週間飲水投与した発がん性試験において、腫瘍発生率の有意な増加はみられていない(IARC 52(1991))。

(3) 雌マウスに本物質(有効塩素濃度10%)を経皮適用した発がん性試験において、発がん性はみられていない(IARC 52(1991))。

生殖毒性 : データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 単回ばく露に関するガイダンス値の範囲から判断して、特定標的臓器毒性(単回ばく露)区分3気道刺激性とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : つなぎの法則から、特定標的臓器毒性(反復ばく露)分類できないとした。

誤えん有害性 : 本製品の試験データがないので、分類できないとした。

有害性その他 : 情報なし

次亜塩素酸ナトリウムの有害性情報

・急性毒性(経口) : 【分類根拠】
(1)～(3)より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) 水溶液(有効塩素濃度12.5%)でのラットのLD₅₀ :
雄：5,230mg/kg(REACH登録情報(Access on October 2020))

(2) 水溶液(有効塩素濃度12.5%)でのラットのLD₅₀ :
8,830mg/kg(AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014)、EURAR(2007))

(3) 水溶液(有効塩素濃度5.25%)でのラットのLD₅₀ :

13,000mg/kg(EURAR(2007))

急性毒性(経皮)

：【分類根拠】

(1)、(2)より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) 水溶液(有効塩素濃度5.25%)でのラットの

LD₅₀：>2,000mg/kg(AICIS(旧NICNAS)

IMAP(2014)、EURAR(2007))

(2) 水溶液(有効塩素濃度12.5%)でのウサギの

LD₅₀：>20,000mg/kg(REACH登録情報(Access on
October 2020))

急性毒性(吸入:気体)

： GHSの定義における液体であり、
区分に該当しない。

急性毒性(吸入:蒸気)

： データ不足の為分類できない。

急性毒性(吸入:粉じん)

：【分類根拠】

(1) からは区分を特定できず、分類できないとした。
なお、(2)よりミストとしてmg/Lを単位とする基準値
を適用した。

【根拠データ】

(1) ラットのLC₀(1時間)：>10.5mg/L(4時間換算値

：>2.63mg/L)(AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014)、
EURAR(2007))。

(2) 本物質の吸入ばく露はエアロゾルの場合のみ
可能である(AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014)、
EURAR(2007))。

皮膚腐食性/皮膚刺激性

：【分類根拠】

(1)～(5)より、区分1とした。

【根拠データ】

(1) 本物質(原液)はウサギを用いた皮膚刺激性試験で
腐食性を示し、皮膚刺激性インデックス(PII)は5.08
であった。なお、水溶液も高濃度では腐食性を示す

(EURAR(2007))。

(2) 本物質の5%~10%液は刺激性、10%以上で腐食性を示す(EURAR(2007))。

(3) 本物質のウサギを用いた24時間適用による皮膚刺激性試験で、低濃度(有効塩素濃度5.25%まで)では軽度刺激性、有効塩素濃度12.5~12.7%では中程度から重度の刺激性を示す(AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。

(4) 本物質のウサギを用いた皮膚刺激性試験で、有効塩素濃度0.24~6%までの範囲で低濃度では軽度刺激性を示すが、最高濃度では腐食性を示す(AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。

(5) 本物質は皮膚と眼に対して、刺激性及び腐食性を有する(GESTIS(Access on August 2020))。

【参考データ等】

(6) EU-CLP分類でSkin Corr.1B(H314)に分類されている(EU-CLP分類(Access on October 2020))。

眼に対する重篤な損傷性 : 【分類根拠】

/眼刺激性 (1)~(4)より、区分1とした。

【根拠データ】

(1) 本物質は皮膚腐食性(区分1)に区分されている。

(2) 市販の製品(有効塩素濃度12.5%)及び1/2水希釈液はウサギを用いた眼刺激性試験(ドレイズ法)で重度の刺激性を示し、最大刺激性スコア(MAS)はそれぞれ60及び49であった(EURAR(2007))。

(3) 本物質は高濃度で、眼に対して腐食性を示す(AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。

(4) 本物質は皮膚と眼に対して、刺激性及び腐食性を有する(GESTIS(Access on August 2020))。

【参考データ等】

(5) EU-CLP分類でEye Dam.1(H318)に分類されている(EU-CLP分類(Access on October 2020))。

呼吸器感作性 : データ不足のため分類できない。

皮膚感作性

：【分類根拠】

(1)～(3)より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) 本物質のOECD TG 406に準拠したモルモットを用いた皮膚感作性試験(ビューラー法、適用濃度40%)で、陰性と報告されている(REACH登録情報(Access on September 2020))。

(2) 本物質を8%含有する試料のモルモットを用いた皮膚感作性試験で感作反応はみられていない(EURAR(2007)、AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。

(3) 本物質と界面活性剤の混合液のモルモットを用いた皮膚感作性試験(ビューラー法)で感作性はみられていない(EURAR(2007))。

【参考データ等】

(4) 225人の接触皮膚炎患者へのパッチテストで1例のみ、本物質で陽性反応を示した(EURAR(2007))。

(5) 69人の接触皮膚炎患者へのパッチテストで陽性反応はみられていない。その他、20人及び40人のヒトパッチテストの結果でも、明確な結果は得られていない(EURAR(2007)、AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。

生殖細胞変異原性

：【分類根拠】

(1)、(2)より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) in vivoでは、マウス腹腔内又は経口投与の骨髄を用いた小核試験で陰性、マウス経口投与の骨髄を用いた染色体異常試験で陰性、ラット経口投与のDNA損傷試験で陰性の報告がある(EURAR(2007)、NTP TR392(1992)、Patty(6th, 2012))。

(2) in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陰性、陽性の結果、哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験で陰性、陽性の結果(EURAR(2007)、NTP TR392(1992))、姉妹染色分体交換試験で陽性の

報告がある(EURAR(2007))。

発がん性 : 【分類根拠】

(1)~(3)より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) 国内外の分類機関による既存分類では、IARCで本物質を含む次亜塩素酸塩としてグループ3(IARC 52(1991))に分類されている。

(2) 雌雄のラット及びマウスに本物質(有効塩素濃度14%)をラットは104週間、マウスは103週間飲水投与した発がん性試験において、腫瘍発生率の有意な増加はみられていない(IARC 52(1991))。

(3) 雌マウスに本物質(有効塩素濃度10%)を経皮適用した発がん性試験において、発がん性はみられていない(IARC 52(1991))。

生殖毒性 : 【分類根拠】

本物質のデータはないが、本物質は水溶液中で次亜塩素酸イオンとナトリウムイオンに解離すると考えられる。したがって、次亜塩素酸(CAS番号7790-92-3)のデータを基に分類を行った。(1)~(3)より、概ね生殖影響はないと考えられるが、器官形成期のみに投与した発生毒性のデータがないことから、データ不足のため分類できないとした。

【根拠データ】

(1) ラットに次亜塩素酸を強制経口投与した1世代生殖毒性試験において、毒性の臨床徴候、血液学的変化、体重、精子数、精子運動性、精子形態、生殖器官の病理組織学的病変は認められず、受胎能、胎児生存率、同腹児数、胎児体重、開眼日、膈開口日に用量依存性の影響はみられていない(EURAR(2007)、AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。

(2) 雌ラットに次亜塩素酸を交配前2.5か月から妊娠期間中に飲水投与した試験において、母動物毒性、発生毒性はみられていない(EURAR(2007))、

AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。

(3) EURAR(2007)では、本物質のデータはない。

しかし、次亜塩素酸や塩素を用いた動物試験結果について、データは限られているが、次亜塩素酸ナトリウムは次世代の発生または受胎能に有害な影響を及ぼすことを示唆する証拠はないという結論を導くことが可能と報告されている。同様に、塩素処理された飲料水を摂取している集団に関する疫学研究からも、そのような証拠は得られないとしている(EURAR(2007))。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 【分類根拠】

(1)、(2)より、区分3(気道刺激性)とした。消化器系への影響は本物質の刺激性によるものと考えられるため、採用しなかった。なお、新たな情報源の使用により、旧分類から分類結果を変更した。

【根拠データ】

(1) 本物質を含む薬剤にばく露されたヒトで、眼及び上気道刺激がみられた(EURAR(2007))。

(2) 本物質を含む少量の塩素系漂白剤の誤飲は食道の炎症を引き起こす可能性があり、高濃度では上気道に重篤な損傷を引き起こし死に至ることがある(AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。

【参考データ等】

(3) 本物質から発生する塩素ガスによってのどに火傷や咳を引き起こす。高濃度ばく露は気道浮腫や閉塞性気管支炎につながる可能性があり、重篤な場合には非心臓性肺水腫が発生する可能性がある(IPCS PIM 495(1998))。

(4) 本物質を含む漂白剤を誤飲した66歳の女性(誤飲量不明)が4.5時間後に心停止で死亡し、剖検では食道及び胃の粘膜びらん、食道胃接合部の穿孔、隣接する軟部組織の広範な壊死を認めた(AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。

(5) 本物質を誤飲すると吐き気、嘔吐を伴う胃腸の

炎症がみられ、大量の摂取の場合では、胃の腐食損傷、高塩素血症性アシドーシスを伴う高ナトリウム血症がみられる(IPCS PIM 495(1998))。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 【分類根拠】

(1)、(2)より次亜塩素酸ナトリウムの経口及び経皮経路の反復投与毒性は低いと考えられるが、吸入ばく露による呼吸器への影響が不明であるため、分類できないとした。情報源の情報を見直し、旧分類から分類結果を変更した。

【参考データ等】

(1) 本物質(有効塩素濃度14%)を用いた飲水投与実験では、ラット、マウスに90日間及び2年間投与した場合も摂水量低下に伴うものと考えられる体重増加抑制がみられたのみである(EURAR(2007)、SIAR(2006))。

(2) モルモットに本物質の水溶液を51週間(週2回)経皮適用した試験で、投与に関連した影響はみられなかった(AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014)、EURAR(2007)、SIAR(2006))。

誤えん有害性 : データ不足のため分類できない。

12.環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 加算式による $L(E)C_{50m} = 0.005\text{mg/l}$ で、区分1とした。

水生環境有害性 長期(慢性) : 急性区分1で、急速分解性を示すデータもないため、区分1とした。

魚毒性/その他 : 情報なし

残留性・分解性 : 情報なし

生体蓄積性	：	情報なし
生態系 - 土壌	：	情報なし
オゾン層への有害性	：	分類できない：モントリオール議定書の附属書に 列記された成分を含まない。

13.廃棄上の注意

- 残余廃棄物 ： 廃液はそのまま廃棄すると環境を汚染して農作物、
魚介類に影響を及ぼすので、そのまま廃棄してはならない。
亜硫酸ナトリウムなどの還元剤を用いて中和する。
「7.取扱い及び保管上の注意」の項を参照し、
「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って廃棄する。
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、
もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には
そこに委託して処理する。
廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を
充分告知の上処理を委託する。
環境への放出を避けること。
- 汚染容器及び包装 ： 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに
地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
-

14.輸送上の注意

国際規制

- 海上規制情報 ： IMOの規定に従う。
- UN-No.(IMDG) ： UN1791
- Proper Shipping Name (IMDG) ： HYPOCHLORITE SOLUTION

次亜塩素酸ナトリウム(次亜塩素酸ソーダ)

21/23

作成日：1998/05/19

改訂日：2022/05/27

Class(ADR)	: 8
Packing group(ADR)	: III
Marine pollutant	: Applicable
Transport in bulk	: CODE Y
according to Annex II of MARPOL 73/78 and the IBC Code	
航空規制情報	: ICAO/IATAの規定に従う。
UN-No.(IATA)	: UN1791
Proper Shipping Name (IATA)	: HYPOCHLORITE SOLUTION
Class(ADR)	: 8
Packing group(ADR)	: III

国内規制

陸上規制 : 消防法、毒物及び劇物取締法、高圧ガス保安法の規定に従う。

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

国連番号(ADR) : UN1791

正式品名(ADR) : 次亜塩素酸塩(水溶液)

クラス(ADR) : 8

容器等級(ADR) : III

海洋汚染物質 : 該当(水生環境有害性物質)

MARPOL 73/78附属書II : 該当(Y類)

及びIBCコードによる

ばら積み輸送される

液体物質

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

国連番号(ADR) : UN1791

正式品名(ADR) : 次亜塩素酸塩(水溶液)

クラス(ADR) : 8

容器等級(ADR) : III

指針番号 : 154

特別な輸送上の注意 : 腐食性が強いので、運搬容器および移液設備(配管、

弁、ポンプなど)は耐食性のあるものを使用する。
分解しやすいので、遠距離輸送はなるべく避けた方が
良い。直射日光下の輸送は、温度上昇によって分解が促進
されるので好ましくない。
酸と接触すると分解して塩素ガスを放出するので、小型
容器詰めのものとの混載は避ける。
専用容器を他の物質と共同してはならない。
小型容器で輸送する場合、栓(ガス抜き栓)部分を上に
して積載する。
輸送に際しては直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏
れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこ
と。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。
輸送車両、船舶に備えるべき防災機材のほか防毒マスク
等の保護具、災害防止薬剤を積載すると共に、表示、警
戒票等を点検、確認する。
輸送時にイエローカードを携行する。

15.適用法令

労働安全衛生法	： 通知対象物質・変異原性が認められた化学物質を含有 しない 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条)、 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2)、 危険性又は有害性等を調査すべき危険物及び有害物 (法第57条の3)に該当しない。
消防法	： 非危険物
化審法	： 一般化学物質(監視化学物質・特定化学物質・優先評価 化学物質を1%以上含有しない)
化学物質排出把握管理促進法 (P R T R法)	： 第1種指定化学物質及び第2種指定化学物質に 該当しない(第2条、施行令別表第1、別表第2)
毒物及び劇物取締法	： 特定毒物・毒物・劇物に該当しない
港則法	： その他の危険物・腐食性物質(法第21条第2項、 規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)

船舶安全法	： 腐食性物質(危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1)
航空法	： 腐食性物質(施行規則第 1 9 4 条危険物告示別表第 1)
大気汚染防止法	： 排出規制物質・特定物質・汚染物質・揮発性有機化合物 に該当しない
高圧ガス保安法	： 高圧ガスに該当しない
外国為替及び外国貿易法	： 輸出貿易管理令別表第 1 の 1 6 の項(キャッチオール規制)
海洋汚染防止法	： 個品運送 P (施行規則第 3 0 条の 2 の 3、国土交通省告示) 有害液体物質(Y 類物質)(施行令別表第 1)
水質汚濁防止法	： 指定物質(法第 2 条第 4 項、施行令第 3 条の 3)
水道法	： 有害物質(法第 4 条第 2 項)、水質基準(平 1 5 省令 1 0 1) 次亜塩素酸ソーダ 水質基準 200mg/L 以下
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	： 特別管理産業廃棄物(施行令第 2 条の 4)
食品衛生法	： 人の健康を損なう恐れのない添加物に該当する (施行規則別表第 1) 指定添加物(用途：製造用剤)

16. その他の情報

本データシートは JIS Z 7252 : 2019、JIS Z 7253 : 2019 に準じて作成しています。

記載内容の取扱い

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データ等に基づいて作成されておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の実用を前提としたものであり、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご使用ください。

以上
